

研究主題 よりよい生活を自ら創り出す子供の育成

I 研究主題について

今後の社会を担う子供たちには、家族・家庭生活や消費生活の変化に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、社会の急激な変化に対応できる力が求められている。一人一人が自立し、家族や地域の人々とともに支え合い、よりよい生活を創造することが必要である。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎に必要な力として、小学校家庭科では、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指している。

日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決するために、知識・技能を身に付け、それらを活用する学習過程において、家庭科ならではの「見方・考え方」を働かせて、思考・判断・表現することが重要となる。これらは家庭生活を大切にしている心情や、家庭や地域の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度が土台となっている。生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎として家庭科教育の果たす役割の重要性を自覚し、家庭科における「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、家庭科教育をさらに充実・発展させていく必要性を感じている。そこで研究主題を「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」とした。



【江戸川区研究授業】

【港区研究授業学習シート】

II 研究構想

以下のように構想し、授業研究に取り組んだ。

研究のねらい

生活をよりよくするために、既習の知識及び技能や生活経験を基に日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する力を養い、主体的に実践する子供を育成するための指導の在り方を研究する。

目指す児童像

- 日常生活に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けている子供
- 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、工夫し解決する子供
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと実践する子供

見付け、身に付け、未来につなごう

研究の視点

児童の系統的な学びを支える指導計画 (カリキュラム・マネジメント)

- 育成を目指す資質・能力の明確化
- 各題材における基礎的・基本的な知識及び技能の明確化と題材配列の工夫
- 単教科等との関連を図った指導計画
- 小中5学年間を見通した指導計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- 学習過程における学習指導の工夫
- 言語活動の充実
- ICTを活用した授業の工夫
- 実践的・体験的な活動の充実
- 個に応じた指導の充実

家庭や地域との連携・協働

- 家庭・地域との関わりを深めるための学習活動の充実
- 家族の一員として継続して実践する児童を育てる家庭連携の工夫
- 地域の人材や教材の開発

学びの成果を次の学習へとつなげる評価

- 資質・能力に沿った評価計画の作成
- 成長を実施できる評価の実施
- 児童の思考の過程を把握し、評価する方法の開発



Ⅲ 研究の内容

*公開授業

○令和5年10月4日(水) 江戸川区
 第6学年「経験から習慣へ 物やお金の使い方2」
 ～C(1)「物や金銭の使い方と買物」の指導の工夫～
 授業者 江戸川区立第四葛西小学校 佐古 真由美 教諭
 講師 元帝京大学大学院教職研究科 教授 小関 禮子先生

○令和5年10月11日(水) 西東京市
 第5学年「食べて元気に ごはんとみそ汁」
 ～B(1)「食事の役割」(2)「調理の基礎」の指導の工夫～
 授業者 西東京市立谷戸第二小学校 丸山 和大 教諭
 根本 紀子 主任栄養教諭
 講師 元東京都小学校食育研究会会長 宍戸 鈴子先生

○令和5年12月6日(水) 港区
 第6学年「こんだてを工夫して」
 ～B(1)「食事の役割」(3)「栄養を考えた食事」の指導の工夫～
 授業者 港区芝浦小学校 石澤 美智子 主任教諭
 深沢 啓介 学校栄養士
 講師 全国小学校家庭科教育研究会 元会長 藤原 孝子先生

*全国小学校家庭科教育研究会 全国大会 神奈川大会にて地区発表

◇北区立小学校教育研究会家庭科部
 「ミシンでソーイングⅡ」
 ～B(5)「生活を豊かにするための
 布を用いた製作」の指導の工夫～



【正方形の布から作った作品】

Ⅳ 研究の成果と課題

1 本研究の成果

- 3地区の授業研究会を通して、各地区における家庭科の研究を深めることができ、その他の地区へ家庭科の指導について啓発することができた。
- 主任栄養教諭や学校栄養士とのTTにより、専門性の高い指導から児童の学びが深い学びとなり、思考を広げ深める姿が見られた。
- 買物の学習では、協働的な学びにより、共感・発見・気付き・驚きなどが多く見られた。実生活に生かすことが期待できる。

2 本研究の課題

- 消費者教育では、ライフステージに応じて、育てたい態度を明確にして繰り返し指導していく必要がある。
- 学習評価について、評価方法を行動観察とした場合は、具体的な視点を明確にして見取るようにする。
- 家庭科を指導する多くの教員に授業研究会や研究発表会に参加してもらい、実践内容を還元できるようにしたい。

<連絡先>

団体名		東京都公立小学校家庭科研究会
代表者	所属	大田区立赤松小学校
	職氏名	校長 飯島 典子
	連絡先	03-3729-0986
事務局	所属	文京区立青柳小学校
	職氏名	校長 村上 律子
	連絡先	03-3947-2471